

事業所名	児童発達支援事業所のびのびりいふ	支援プログラム	作成日	2026 年 2 月 1 日			
法人（事業所）理念	<ul style="list-style-type: none"> 少人数集団での活動の中で『遊び』を通して身辺自立や人と関わっていく力を養い、生きる力を育てる。(SST) 家族のより良い関係づくりのサポートを行う。(家族支援) 						
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの発達段階や発達課題を正しく理解し、方向性を見極めていく。 子ども、スタッフ、保護者、地域社会とのふれあいやつながりの中で、子どもと保護者が生きていくことの喜びを見つけ、学び育つ事の意欲と生きがいを育むことを目的とし、以下の支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①基本的生活習慣(食事・排泄・着脱など生活動作)の確立 ②健康な身体づくり ③意欲や遊ぶ力の育成 ④保護者との協力・連携 ⑤地域・関係機関との交流や連携 						
療育時間	9 時	0 分から	15 時	0 分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="radio"/> あり	なし
	支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整え、健康な身体作りを行う。(睡眠の安定や早寝早起きの習慣の定着) 楽しい雰囲気の中で食事をし、食事動作の自立や咀嚼・嚥下力を獲得し、健康維持を目指す。 排泄の自立(排泄動作の獲得) 衣服や靴、靴下など着用しているものの着脱動作の自立 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりのことを自分で行う経験を通じ、ボディイメージや手指の操作力の獲得につなげる。 歩く、走る、ジャンプする、よじ登る、這うなど全身運動を活動に取り入れることで基本動作の確立へつなげる。 事業所周辺散歩や公園遊び、遠足など户外活動を取り入れ、体力をつける。 身近にある様々な感覚刺激と出会う中で、様々な感覚刺激を受け入れる力につける。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 持ち物の管理や整理を行うことで自他の区別をつける力へとつなげる 「自分でできる」という経験を増やし、「自分のことを自分でする」意欲と自信を高める 日課(日々のスケジュール)に沿った活動と自分で選べる遊びを経験し、くり返しの中で生活の見通しを立てる力につける。 大人を介したり、友達との関わりの中で興味関心を広げ、遊びの世界を広げる力につける。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや要求を大人や周りの人伝えための表現方法を身につけ、人と伝え合う喜びを知り、人と関わり合って生きていきたい意欲を育てる。 発声、指さしなどの行動、表情変化など言葉以外の思いを伝える手段が伝わる経験を通じ、人に自分の思いを伝える自信をつけ、人とコミュニケーションを図る意欲へとつなげていく。 大人と一緒に同じ音(声)を出す遊びや言葉の模倣遊びをたくさん経験する中で「同じ音(声)」を出す喜びや楽しさを味わい、声を出す自信をつけ、言葉の獲得へとつなげていく。 					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 人と向き合う力、感動の共有、応答関係を深める中で対人関係の育ちへとつなげる。 大人を中心とし身近な環境との関わりを通して、豊かな自我の形成を図り、集団に参加する力や友達への意識の芽生へとつなげる。 ルールのある活動への参加を経験することで社会の中にあるルールを知り、守りながら生活する力へとつなげる 集団の中での自分の役割を知り、人から頼られる喜びを知ることで責任感や自尊心を育していく。 					
	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が子どもの発達について正しく認識し、子育ての喜びを感じながら根気強く育てていけるように定期的な面談、親子参加行事を実施する。 保護者の育児負担を軽減できるよう必要な助言や社会資源の情報提供を行う。 		移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 新しい場所へ子どもや保護者が安心して移行し、新しい生活をスタートできるよう、西部療育センターやこども家庭センター、進路先の地域小学校、特別支援学校、こども園や幼稚園、保育所との電話、訪問、文書での連携を行う。 		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場所で子どもや保護者が安心して過ごせるよう、西部療育センターやこども家庭センター、地域の医療機関、平行通園(利用)のこども園や幼稚園、保育所、のばら学園、他事業所との電話、訪問、文書での連携を行う。 のばら学園など地域施設との交流を行う。 		職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、職員全員参加の職員会議、職員研修の実施。 感染症対策委員会、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を設立し、委員会活動を行う。(安全計画、業務継続計画の検討、見直し/各研修、訓練の計画と実施など) 子どもの発達の知識や支援技術の向上、キャリアアップのための外部研修の随時受講 			
主な行事等	4月：お花見遠足 5月：親子遠足 7月：七夕まつり 9月：親子運動会 10月：ハロウィンパーティ 12月：親子クリスマス会 1月：書初め・初詣 2月：豆まさき・お買い物体験 3月：ひなまつり(お茶会) お別れ遠足 ※避難訓練：曜日替わりで毎月実施 ※気候に合わせて子どもだけでおでかけ(平磯公園・五色塚古墳・垂水健康公園・奥須磨公園(多井畠厄神)など)						